

## I 実践

### 1 研究主題

思いやりと感謝の気持ちを育てる人権教育の在り方

#### (1) 主題設定の理由

本校は「心豊かで進んで学ぶ、たくましい児童の育成」を教育目標として掲げている。それを受けて人権教育では「思いやりと感謝の気持ちを基盤とした人権尊重の精神を育てる」ことを目標の一つとしている。

そこで様々な体験学習を通して、温かく接する場の設定をすることで、相手に対して思いやりと感謝の気持ちのある児童を育てたいと考え、本主題を設定した。

#### (2) 研究内容

##### ・豊かな体験活動

異学年交流・地域社会との交流・居住地校交流・福祉体験

##### ・人権教育への啓発活動

人権メッセージ・人権書道・人権啓発ポスター

### 2 実践内容

#### (1) 異学年交流

##### ア ハッピータイム(1～6年 縦割り班活動)

本校では、縦割り班活動として「ハッピータイム」を設定している。6年生がリーダーとなり遊びを考え、木曜日のロングの昼休みに実施している。

1組が「ハッピー赤」、2組が「ハッピー黄」、3組が「ハッピー青」としてグループ分けをしている。

遊んでいる最中に遊び方が分からなくなってしまうたり、友だちとトラブルが発生したりした時も、6年生が説明したり、お互いの話を聞いたりして、お互いが思いやりをもてるようにしている。遊びを終えると高学年が、必ず次に遊びたいものについて低学年に聞くなど、異学年同士の交流を深めるものである。

##### イ 豊っ子フェスティバル(1・2年生 生活科)

1・2年生が生活科の学習活動の中で行っている。2年生がいろいろと遊ぶコーナーを考え、遊びの計画・準備をし、1年生を招待して活動する。1年生はグループで各コーナーを回り、2年生に遊び方を聞いたり、一緒に遊んだりする。楽しく遊ぶことができるように工夫したり、分かりやすい説明ができるように考えたりして、協力し活動を進める。

#### (2) 地域の人たちとの交流

##### ア 豊浦の昔発見!!(3年生 総合的な学習の時間)

地域の人たちとの出会いや交流を通して、昔の暮らしについて自分の興味・関心をもとに調べたり、体験したりする活動である。さらに、地域の昔の暮らしに関する学習でお年寄りの方々との交流を深め、昔の遊びや食生活について一緒に体験したり、話を聞いたりする。体験の後、お年寄りの人たちと交流給食を行う。

##### イ 花いっぱい運動(6年・総合的な学習の時間)

豊浦学区まちづくり推進会の方々とともに、国道6号ぞいの花壇で花を育てている。心を込めて花を育てることで情操教育として役立っている。

##### ウ 敬老会への参加(4・5・6年生 地域行事への支援)

4年生と6年生は作文の発表、5年生は手紙を書き、ダンスの発表をするために準備をして参加する。自分の準備してきたことを発表し、自分の思いや願いを伝えながら交流する。

#### (3) 福祉体験・いのちの教育

ゲストティーチャーとして盲導犬訓練士を招待し、講話をしていただいたり、体験させていただいたりすることで視覚に障害をもつ人への共感を深めた。自分

たちの住む町には目の不自由な人にとって不便なところが多々あることに気付くことができた。

いのちの教育では、赤ちゃんが誕生するまでや思春期についての講話が行われ、一人一人が命の大切さについて理解することができた。

#### (4) 人権メッセージ

高学年を対象にして人権メッセージの取り組みを行った。メッセージを選考して応募した。他の人へ温かく接することや挨拶をしっかりと行う大切さについての意識の高さがうかがえるメッセージがたくさんあった。作品を人権コーナーに掲示することで、人権に対する意識を高めることができた。

#### (5) あいさつ運動

あいさつの大切さを知り、心をこめて気持ちよいあいさつができるようにするとともに、児童同士や教師と児童、豊浦中学校の生徒、委員会の保護者の方とあいさつをすることで心を通わせ、よい人間関係を築くことができるように活動を行っている。11月にはクラスごとに分担が決めてあいさつ運動を行ったことで、あいさつへの関心・意欲が高まった。

### 3 成果

- ・異学年の交流では、下級生を考えながら、活動することができた。どのような説明が分かりやすいのか、どうしたら楽しんでもらえるのか相手の立場になって考えることができた。お互いの立場になって接することで、思いやりの心をもつことの大切さを学ぶことができる場となっている。
- ・福祉体験では、盲導犬の役割を学び、盲導犬とともに歩く体験を行うことで、視覚障害者の人の大変さを理解することができた。また、自分自身はどんなことをすることができるのか考えるきっかけとなった。
- ・あいさつ運動では、あいさつをする側とされる側を経験することで相手の気持ちを考えることができ、あいさつをする大切さを感じることができた。普段から委員会が率先してあいさつ運動を行うことで、日々あいさつをする児童が増えた。

### II 今後の課題

- ・児童は、思いやりや感謝の気持ちをもって接することの大切さは分かっているが、自分の行動に生かすことはなかなか難しい。異学年交流、地域交流・居住地校交流、福祉体験でいろいろな人との関わり、体験を通していくことで人権に対する意識を高め、行動に生かせるようにしていくことが課題である。
- ・教職員の人権教育に対する研修の充実を図り、理解を深め、学校教育の活動の中で人権教育を積極的に取り組んでいくことが必要である。
- ・思いやりと感謝の気持ちをより確かなものにするため、児童が自分で考えたり、表現したりする人権学習を積極的に取り入れることも必要である。そのために、道徳・総合的な学習の時間や特別活動、学級活動、生徒指導などと関連させながら充実化を図っていきたい。

### III 人権コーナー設置の様子

